

ヴェリタス学習会通信 106

予定表カレンダー →



令和8年1月の予定

- ・月曜日 1月12・19・26日 大安公民館1階研修室 18:30～21:00
- ・火曜日 1月6・13・20・27日 員弁老人福祉センター1階会議室3 18:00～20:30
- ・水曜日 1月7・14・21・28日 ヴェリタス事務局 18:30～21:00
- ・木曜日 1月8・15・22・29日 北勢市民会館1階リハーサル室 18:30～21:00

藤原文化センターは休止中です。水曜日はヴェリタス事務局で開会しています。

ヴェリタス事務局の所在地は、511-0261 いなべ市大安町丹生川上 650-1 です。
丹生川上集会所（旧丹生川上児童館・教育集会所）内です。

警報^{けいほう}が出ている場合は休会^{きゅうかい}にします。いつもその会場に来ている方には LINE など

でお知らせいたしますが、不安な場合はお問い合わせください。



連絡先

ヴェリタス学習会担当まつみやの携帯電話番号：090-7696-0189（+メッセージも可能）

メールアドレス：npoveritas@gmail.com

LINE ID：m9s0bay（4文字目は数字のゼロです）

Facebook の「松宮 卓」に友達申請していただければ Messenger が使えます。

メールや LINE 登録をしていただいた方には、それを利用して休会連絡を行います。手数

削減^{さくげん}協力のため、できる限りご登録ください。LINE を利用して、宿題等の画像^{がぞう}を送って

くる子もいます。自分でできるところまでやって送ってもらうと、効果^{こうか}的な返信ができます。



Zoom などの会議ツールを利用しませんか



利用が広がっている Zoom クラウドミーティングや Skype, Facetime, Google Meet などを利用して学習しませんか。興味^{きょうみ}のある方は、ご相談ください。
（画像は生成したもので、実在の人物ではありません）

以前につくった英語の名詞と名詞系語句についての中学生用のファイルを上げました。右の QR コードか下記の URL からご覧になれます。

<http://www3.cty-net.ne.jp/~veritas/info25/noun01.pdf>



『国宝』日本の古典芸能の世界を描いた作品



小学校6年生の光村図書の国語の教科書に「古典芸能の世界」という単元があります。古典芸能とは、^{のう}能・^{きょうげん}狂言・^{がぶき}歌舞伎・^{にんぎょうじょうり}人形浄瑠璃(文案)・^{らくご}落語などのことです。

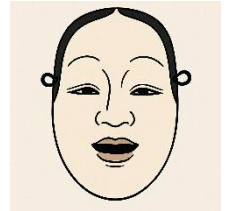
私の知人は歌舞伎の世界を描いた『国宝』という映画を観て、涙が止まらなかったそうです。原作は吉田修一氏で、書籍で出ています。

上のQRコードは、日本芸術文化振興会のデジタルライブラリーのページのURLです。URLも下に記します。

<https://www2.ntj.jac.go.jp/dqlib/modules/learn/>

能と狂言は切っても切れない仲

^{かんあみ}観阿弥・^{せあみ}世阿弥が室町時代に芸術の域にまで高めた能の舞台と、交互に演じられるのが狂言です。狂言は大掛かりな舞台装置なしで、会話を中心に身振り手振りで演じられる「笑い」をテーマにした劇です。



能は神や幽霊・歴史上の人物などが現れ、^{うたい}謡と^{まい}舞を中心とした静かで神秘的な劇です。主役は^{のうめん}能面をつけます。

それに対し狂言は、日常生活で起こる人間の^{こっけい}滑稽さを描く劇です。

交互に演じることで、緊張と緩和、深刻と滑稽といった両方を出し物にして、調和を取っていると考えられます。日本人らしさなのかもしれません。

狂言師の方のものの見方

こどもたちに狂言の魅力を伝えてくれている^{おおくらりゅうきょうげんがた}大蔵流狂言方の^{とうじろう}山本東次郎さんが、光村図書の小学校の教科書の参考資料として文章を書いています。『人と出会う、本と出会う～人間の愚かしさを描く』というPDFが光村図書のホームページに上がっています。すべて読んでほしいのですが、特に私が刺激を受けた部分を紹介します。



https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/32135cf7-9411-4246-9990-1ca617c4c61b/1086

現在の日本人は穏やかなものを好まず、過激なもの、強烈なものを求めます。…(中略)
…。善悪の判断もできない幼いうちから、子どもたちがそうしたものを見聞きして育っていくのは恐ろしいことです。

現在の表現者たちは受け取る側の知性、感性、教養、美意識、それらを見捨て、作り手が一方的に自分たちの自己主張を押し付けます。それに対し日本の古典は受け手に向かって打って出ることをしません。想像力を働かせ、心の中で自由な世界を展開してもらうこと、そのために余白を残し、簡素で控えめな表現に徹します。受け取る側の人々が気がついて、近づいて来てくださるまでじっと待っている、これも人間に対する優しさ、思いやりにほかならないと思います。

狂言は、ちょっとした事件が起こります。身に起こった問題や困難に対処する際、どのように判断して対処するか、自分だったらどうするか、それを考えながら観てもらおうと良いともアドバイスされています。